

医療の質向上・安全推進センター（QSセンター）

1. スタッフ（2024年4月1日現在）

センター長（医師）	新保 昌久（専任）
副センター長（医師）	味村 俊樹（専任）
医師	◎野本 佳恵（専従）
看護師	◎高久 美子（専従）
看護師	◎飯田 久子（専従）
薬剤師	北島 智富（専従）
看護師	栗原日登美（専従）

（◎ 専従医療安全管理者）

【安全推進部門】

部門長（医師）	新保 昌久（専任）
副部門長（医師）	佐久間康成（兼）
副部門長（医師）	門田 行史（兼）
副部門長（医師）	間藤 尚子（兼）
副部門長（医師）	藤井 裕之（兼）
副部門長（看護師）	大貫 紀子（兼）
医師	高橋 詳史（兼）
医師	益子 貴史（兼）
医師	滝 直也（兼）
教員	前田 佳孝（兼）

【質向上・臨床倫理部門】

部門長（医師）	味村 俊樹（専任）
副部門長（医師）	堀江 久永（兼）
医師	益子 貴史（兼）

【医薬品・医療機器安全管理部門】

部門長（医師）	今井 靖（兼）
副部門長（医師）	川人 宏次（兼）
薬剤師	片野 昌宏（兼）
臨床工学技士	木村 好文（兼）

【渉外担当部門】

部門長（事務）	鈴木 克幸（専従）
---------	-----------

事務 8名

2. 医療の質向上・安全推進センターの特徴

院内で発生した医療安全上の諸問題に組織横断的に対応するため、2003年4月に病院長直轄組織の「医療安全対策室」を設置、2004年には「医療安全対策部」に改称し、2005年には専任の医師1人、看護師長2人を配置した。医療安全対策部は、院内インシデント報告制度の整備、職員研修の実施、事例分析、院内巡視、有害事象後の対応等、院内の安全管理に関する多様な業務を担当してきた。

更に2017年4月に、高度医療を提供する特定機能病院における医療の質・安全管理体制を強化するため、新

たな医療安全管理部門として、「医療の質向上・安全推進センター」（略称：QSセンター）に改組した。新たな名称には、事故発生時の危機管理だけでなく、「平時の医療の質の向上が医療安全につながる」という理念と、「より前向きな取り組みで医療安全を推進していこう」という意気込みを込めている。QSセンターは、安全推進部門（インシデント報告の収集・分析、有害事象の原因究明、医療安全管理指針・各種マニュアルの整備、院内巡視による確認・指導など）、質向上・臨床倫理部門（高難度新規医療技術及び特定診療に関する審査・モニタリング、臨床倫理への対応など）、渉外担当部門（有害事象・訴訟への対応など）に加え、2019年4月から医薬品・医療機器安全管理部門（未承認新規医薬品・医療機器、適応外等医薬品・医療機器に関する評価・モニタリング・監査への対応など）が設置され、それぞれ専従、専任、兼務スタッフ及び各部門のQSマネージャーと連携して、医療の質と安全を高める取り組みを進めている。

3. 実績・クリニカルインディケーター

●業務内容

- 医療安全に関する情報収集、分析、改善策の立案、周知、評価
- 医療安全対策の提案・情報提供（啓発活動）
- 医療の質向上・安全推進委員会、QSマネージャー会議の開催
- 職員に対する教育（講習会、研修会の開催）
- 全死亡症例の把握
- 有害事象発生時の支援
- 高難度新規医療技術及び特定診療に関する審査・モニタリング
- インフォームドコンセントの適切な実施
- 臨床倫理に関する情報収集、連絡調整
- 未承認新規医薬品・医療機器及び適応外等医薬品・医療機器に関する審査・モニタリング・監査
- 医薬品・医療機器の安全使用のための情報収集、研修の実施
- 紛争事例への対応（総務課、患者サポートセンター医療福祉相談室と連携）

●2023年の主な活動実績

- 医療安全講習会（全職員対象）
 - ①医療安全・感染対策合同講習会
開催日 5月24日

- 演 題 「医療安全2023～昨年度の振り返りと今年度の取り組み～」
医療の質向上・安全推進センター
新保 昌久
- ②医療安全講習会
開催日 7月25日
演 題 「なぜインシデントレポート報告が必要なのか？」
医療の質向上・安全推進センター
野本 佳恵
「要管理医薬品の適切な管理について」
医薬品安全管理副責任者
片野 昌宏
「投薬の安全確認」
医療の質向上・安全推進センター
荒川 祐輔
「インシデント事例と対応～昨年の振り返り～」
医療機器安全管理副責任者
木村 好文
- ③医療安全・感染対策合同講習会
開催日 9月25日
演 題 「共有意思決定 (SDM) ～適切なアドバンス・ケア・プランニング (ACP) のために～」
医療の質向上・安全推進センター
味村 俊樹
- ④医療安全講習会
開催日 10月19日
演 題 「組織で取り組む静脈血栓塞栓症予防～特定機能病院として求められる対応レベルとは～」
横浜市立大学附属病院
菊地 龍明
- (2) 研修医医療安全セミナー
①開催日 2月13日
テーマ 「インシデント報告と薬剤師からのお願い」
②開催日 6月19日
テーマ 「インシデント報告と採血手技」
③開催日 8月21日
テーマ 「インシデント報告と臨床倫理および説明・同意 (IC)」
④開催日 10月16日
テーマ 「インシデント報告と病棟で使用する医療機器の注意点」
⑤開催日 12月18日
テーマ 「JUMP3更新に伴う検査レポートの既読管理方法の変更点について・インシデントレポートの書き方 (復習)」
- (3) 医療安全に関する研修会
①新QSマネージャーオリエンテーション
・QSマネージャーの役割編
②研修医感染・安全技術研修 (4月)
・インシデントレポートの書き方演習
・採血、ルート確保、輸液ポンプ演習等
③多職種合同医療安全研修会 (4月)
・動画を用いたケースカンファレンス
④新人看護職員基礎技術研修 (4月)
・安全確保1、2、3
⑤中心静脈カテーテル挿入技術認定研修会
・新規認定医 43名 (1、5、11月)
⑥AED・心肺蘇生研修 (1、6、9、10、11、12月)
計8回 257名
⑦新人医療技術系職員・事務職員研修
・急変時対応
・インシデントレポートの書き方
- (4) 医療安全管理指針、マニュアル改正等
①医療安全管理指針
②QSマネジメントマニュアル
③QSマネジメントマニュアル (ポケット版)
④医薬品の安全使用のための業務手順書
- (5) 安全情報
①QSセンター発行
The Q.S. Times (第67号～第78号)
②日本医療機能評価機構発行
医療安全情報 (No.194～No.205)
- (6) 医療の質・安全に関する事例検討会 4回開催
- (7) 院内横断的活動
①人工呼吸管理安全対策チーム活動
②委託業者との連絡会
③中央手術部連絡会議
④医療材料審査委員会
⑤輸血療法委員会
- (8) 院内巡視
月2回 計17回
参加者内訳
QSセンター員：延べ109名
QSマネージャー：79名
- (9) 医療の質向上・安全推進委員会
毎月1回 第2火曜日
- (10) QSマネージャー会議
隔月1回 第3木曜日

(11) モーニングカンファレンス
毎週水曜日

(12) ワーキンググループ活動

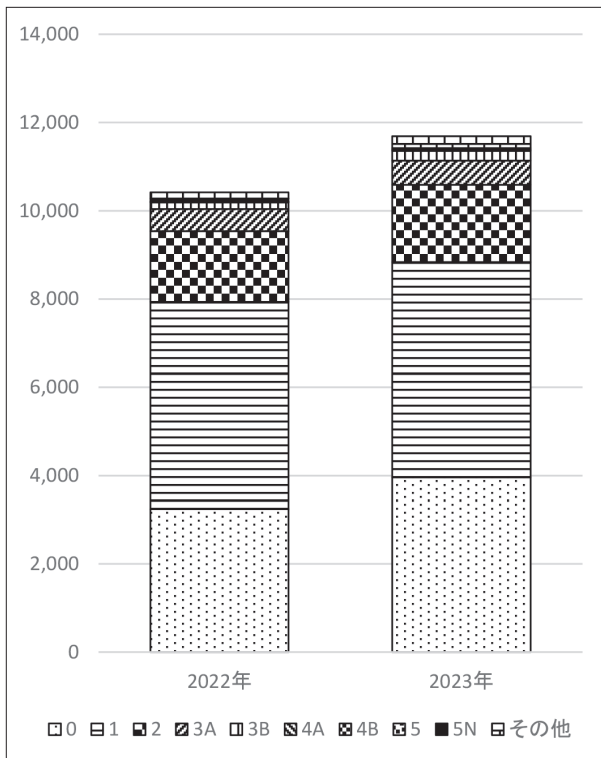
- ①VTE予防対策
- ②中心静脈カテーテル
- ③気管切開安全対策
- ④転倒転落
- ⑤インフォームドコンセント
- ⑥院内急変時対応
- ⑦MACT
- ⑧休薬
- ⑨鎮静

(13) 安全活動

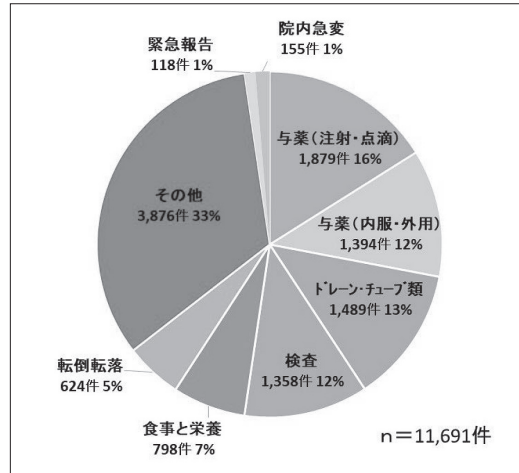
- ①安全総点検月間
5月22日～6月23日
テーマ 「守っていますか？安全のルール！ 2023」
- ②医療安全推進週間
11月19日～11月25日
テーマ 「守っていますか？安全のルール！ 2023」

(14) インシデント・アクシデントレポート

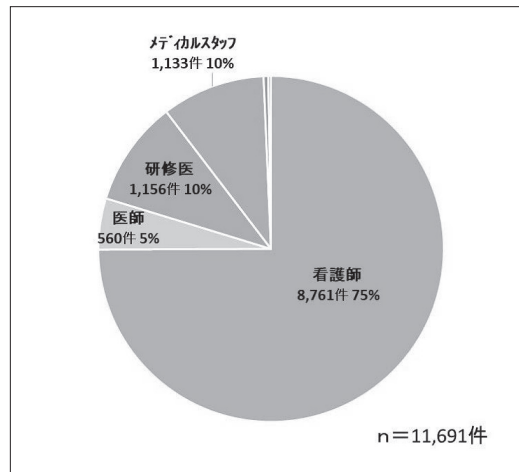
①報告件数比較（2022年、2023年：1～12月）



②2023年 種類別報告一覧



③2023年 職種別報告一覧



(15) 日本医療機能評価機構との連携

- ・事例報告
- ・研修会の参加

(16) 社会、他の医療機関等に対する貢献

- ・患者安全・医療安全・医療の質に関する情報の提供、講師派遣

4. 2024年の目標・事業計画等

従来の業務に加え以下の諸事項を目標としている。

- ①QSマネージャーとの連携強化による各部署における主体的な安全活動の推進
- ②当院の医療安全文化の醸成に関する客観的評価の活用
- ③インシデント報告の質向上と分析・活用の強化
- ④若手医療スタッフへの医療安全教育の充実
- ⑤Rapid Response System (RRS) の体制の再構築
- ⑥医薬品の安全使用の推進
- ⑦患者の意思決定支援に関する啓発

これらの目標達成へ向けての努力と並行して、病院内での横断的なコミュニケーションが円滑に進むように支援していきたいと考えている。